

北アルプス 岳沢定着(奥穂高岳・西穂高岳・前穂高岳)

小暮

【日時】 2010年4月30日(金)～5月3日(月)

【メンバー】L小暮、横山、笹川

4/30 アプローチ

今日は岳沢にベースを張って、西穂沢から西穂高岳に行く予定だったが、朝から空がスッキリしない。うっすらと穂高が見えたが何だか例年になく白い気がする。上高地から岳沢の登山道に入ると雪が舞い始める。今日は平日なので行きかう人も数人だった。登山口で岳沢小屋営業中の看板を見つけたが、その後看板は一度も出てこず、いったいどこに小屋があるのかと思いついて歩いていると、岳沢ヒュッテ跡に小屋を発見。小屋と言ってもまだ基礎しかなく、従業員の作業小屋とテントが数張り雪に閉ざされている状態だった。これでは見つかるはずもない。しかし、水場とトイレが使えるのはとてもありがたい。

悪天の中、西穂高岳に行く気分にはなれないので、明日の奥穂高岳南稜の取りつきを確認することに。南稜へは数年前に行っているが、悪天でルート巻いた記憶が強い。今日取りつきまで行ってみると、その時取り付いた場所が違って、そのまま隣の尾根を登ったことが分かった。明日のリベンジが楽しみだ。

5/1 奥穂高岳南稜 ～充実しすぎの16時間～

奥穂高岳南稜はウォルター・ウェストンが初めて奥穂高岳の登頂に成功した際に登られたクラシックルートである。中間点にあるトリコニーが核心部である。昨日の偵察の甲斐もあって、夜明け前でも迷わずに滝沢を詰めて行く。大滝手前のブッシュ混じりの尾根が取り付きなので、いよいよ登り始める。ロープを出す程では無いので、灌木を掴んで登っていく。一部足元が不安定なところがあるのでロープを出す。

ここから雪稜となるのでコンテでランニングを取りながら登っていく。昨日と同様に小雪が舞うような天気でもまるで4月のような様相だ。急な雪壁にはスノーバーを使って登っていくと、ようやく岩場が見えてきた。

簡単な岩場を1ピッチ抜けたところで、顕著な凹角。今年は雪が多いこともあって、岩の間にある硬雪にピックを打ち込んで登る。その先がトリコニーの顕著なピナクルだ。ピナクルの右側を登ってい



トリコニーへ向かう

くが、ここは易しい。その次が左に回りこむようにして岩峰の上に出るのだが、出口の手掛かりが少なくちょっと難しい。この辺りはジグザグに登っていくので、登りきったところから後続が全く見えず、意思疎通がうまく通じずコールが聞こえなくてお互いに待ち状態となってしまう30分位タイムロスしてしまった。



硬雪にアイゼンを効かせてトラバース

岩場を少し登った先からは、ナイフリッジの雪稜となるが、雪面がカチカチで左側斜面をトラバースするがダブルアックスとふくらはぎがパンパンになる登りだ。50mザイル一杯となったので、一旦ピッチを切り、更に急な雪壁15mにザイルを伸ばす。スノーバ

ーが大活躍である。時計を見ると結構時間が掛かっている。

ここからは雪稜となるのだが、ランニングコンテで支点を取りながら行ったら結構時間が掛かってしまった。雪の状態もよくなく、トレースも無いのだから止むを得ないだろう。次第に天気もよくなってきて前穂高岳から明神岳の稜線も見えるようになってきた。南稜の頭に着くころにはすっかり遅くなってしまったので、奥穂高岳のピーク往復は割愛して吊尾根を辿る。吊尾根はスイスイと思いきや、トレースも無く雪も多いのでロープを出して降りていく。下降する斜面は雪がガチガチに凍っていて念のために確保して降りるのでなかなか捗らない。

コルまで降りたところで、以前登った時にも前穂高岳まで行かずに沢へ降りていったことを思い出し、ここから下降することにする。斜面が硬いのでロープを出して交代で降りていく。このまま行くと滝沢の大滝まで行ってしまうかなと思っていたら、やっぱり大滝まで来てしまった。以前は途中でトラバースして前穂高沢にうまく移ったのだった。

失敗したと思いつつも、大滝が懸垂で降りられるか確認しようと、手前の灌木から懸垂して落ち口に近づいていく。落ち口手前の灌木でピッチを切りなおせるが、ロープが届か分からない。リスクがあるので、大滝を降りるのはやめて右岸の藪尾根にトラバースすることに。登り返しがきつい。

藪尾根は懸垂下降すること4ピッチ。回収を考えてシングル懸垂を行うが、最後は日が暮れてしまった中で、ダブルロープで降りてようやく南稜の取り付きに戻ってきた。既に辺りは真っ暗で今回もハマってしまった。まるで4月のような雪の状態でトレースが無かったとは言えちょっと反省。くたくたになってテン場に戻ると、小屋では心配してくれていたのか発電機で電気をつけていてくれた。あまりにも時間がかかって夕食が遅くなった。明日はコブ尾根を予定していたが、明日は早起き出来そうにないので諦めて西穂高に予定変更だ。今回は条件が悪かった分、GW4日分を満喫するほど充実してしまった。

5/2 西穂高沢から西穂高岳 ～この陽光こそGW山行！～

前日の奥穂高南陵で疲れたので、予定のコブ尾根から初日に風雪の為、割愛した西穂高往復に変更した。時間的にも余裕があるので朝寝で体力回復を図ろうと、岳沢に日が当たるまで寝ていた。朝食を食べてテントを出ると回りのテントはもう誰もいない。昨日までと違い、春山らしい暖かい陽気だ。これぞゴールデンウィーク！コブ沢、天狗沢、間の沢を横断して西穂高沢へ向かう。強烈な日差しのおかげで、今日はアイゼンに雪団子が激しく付着する。特に私のアイゼンはスノーシャット未装着の為、一歩毎に下駄になりウンザリする。傾斜も緩いのでアイゼンを外した。



頂上直下：夏道は出ておらず、稜線通しにピークへ

小一時間で西穂高沢に入り、長い登りが始まる。途中、デブリが落ちてくるが、歩行ラインには影響は無い。陽光の照り返しを浴びて、非常に暑い。昨日がこうなら良かったのに…。昨日の疲れとザクザクの雪で一向に高度が上がらない。いよいよ傾斜も出てきたので3回目の休憩の時にアイゼンの裏にビニール袋と被せて、テーピングで固定、雪団子がくっつかず調子が良い。一日くらい大丈夫だろう。

昼過ぎにようやく稜線に辿り付く。独標方面から奥穂高へ行く2人組と言葉を交わす。見るからに稜線は雪が多くて西穂の先は怖そう。頂上も以前は夏道から巻くように登った記憶があるが、ほぼ稜線通しに登った。山頂も雪が多く、平らな場所は殆ど無くイメージと違う。もっとも、前回雪の西穂に来たのが20歳の時だから23年前ぶり。うん、やっぱりアルプスは良い。(by岐阜県民)

下りは随所にシリセードの跡があるが、大事なカッパが傷むので我慢我慢。スキーがあればな～。テン場に帰るとみんなテントの外で和んでいる。我々もビールで乾杯、アルプ



山頂：雪が多くて平らな部分なし。
撮影した小暮さん結構ヤバイ位置

スの春を楽しんだのでした。

5/3 奥明神沢から前穂高岳 ～急な雪壁から山頂へ～

3人とも南稜と西穂だけでは物足りず、下山日に前穂まで行く事になった。GWも中盤となると朝のトイレ待ちも出てくる。岳沢も日に日に賑わってきた。前穂高岳へのルートは奥明神沢と重太郎新道のルートがあるが、この時期は奥明神沢のルートを通る人が殆どようだ。奥明神沢は南稜の下山ルートでもあったので、確認もしておきたい。どこから見ても急峻な沢に見えたが200mも上がるとやはり急登となる。まだ雪が締まっているのが何よりだが日影部分は硬いくらいだ。ずっと急な斜面が続き休憩場所もないので、精神的に疲れてくる。

山頂は風があり寒いが、吊尾根や前穂北尾根、涸沢が良く見える。しばらく眺めていたところだが、山頂は狭く他パーティーも到着する頃なので少し戻った所で休憩とするが、風が強くとんだ気はしなかった。

ここから岳沢まで急な下りが続くが、膝が痛い私には前を見て歩く事ができない。なんとか斜め下を向いて歩いてみるが、それも次第に出来ないほど痛み始め最後にはクライムダウンで下りしかなかった。二人をだいぶ待たせてしまったが何とか岳沢まで辿りついた。コブ尾根に行



前穂高岳山頂より槍ヶ岳を望む

けなかったことが心残りではあるが、テントを撤収して上高地まで下ることとする。上高地までは行きにはなかったトレースがバッチリできていて、夏道のショートカットルートとなっていた。上高地から穂高を眺めると行きの様相は異なり、黒くなり始めていた。

トマでは珍しい北アルプス大好きメンバーで春の穂高を満喫してきました。今度はコブ尾根ですね！

【行程】

4/30 上高地(8:30)～岳沢 BC(11:30)

5/1 BC(4:10)～南稜取り付き(5:00)～南稜ノ頭(14:10)～コル(16:30)～南稜取り付き(19:30)～BC(20:00)

5/2 BC(9:00)～西穂高沢出合(9:45)～稜線(12:55)～西穂高岳(13:15/30)～BC(15:00)

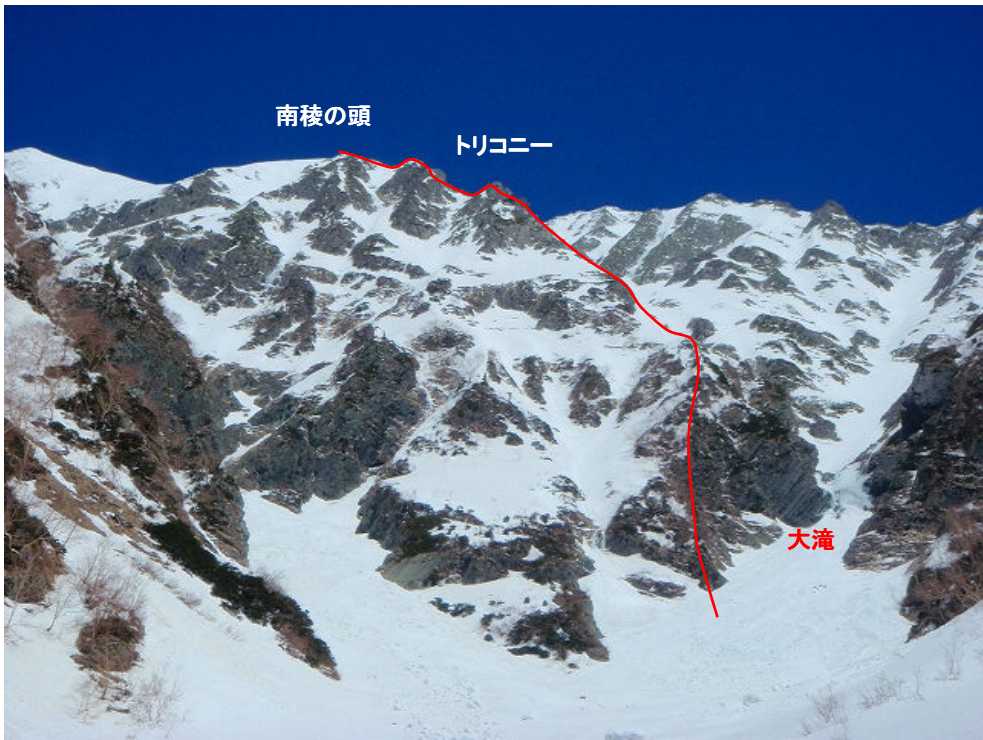
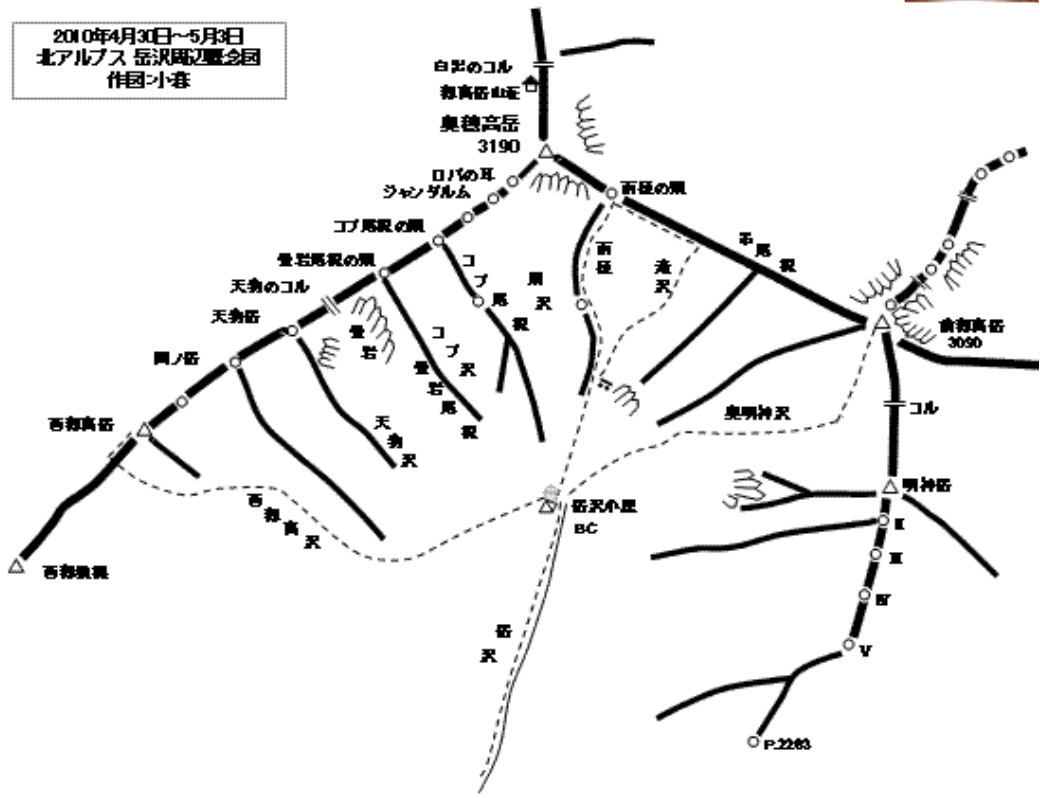
5/3 BC(5:10)～前穂高沢分岐(6:35)～前穂高岳(8:24/40)～BC(10:40/11:25)～上高地(13:10)

【地図】 穂高岳、上高地 【資料】日本登山体系

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>



2010年4月30日~5月3日
北アルプス 岳沢周辺登山会
作回小春



奥穂高岳南稜ルート全景

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>